

## 総合型選抜、学校推薦型選抜はどうなるのか

前回、英語民間検定試験について記しましたが、今回は総合型選抜、学校推薦型選抜について記しましょう。

2020年から始まる新しい大学入試制度、現在の2年生から適応されます。大学入学共通テストがスタートするだけでなく、英語民間検定試験が導入されたり、A0入試や指定校入試が廃止され、総合型選抜、学校推薦型選抜に変更されたりします。A0入試や指定校入試から総合型選抜、学校推薦型選抜に名称が変更されるだけでなく、選抜の内容も大幅に変更されます。では、なぜ、選抜の内容まで、大幅に変更されるのでしょうか。

やはり、入試制度を変更しないと高校生、大学生の学習時間が増えないといわれています。そこで今回の高大接続改革にもなって大学入試の改革があり、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜になります。特に、総合型選抜、学校推薦型選抜では、いままでのA0や指定校入試と異なり、必ず学力や技能を課すことになりました。

少し古くなりますが、日本とアメリカの学生の学習時間(大学の講義以外)を比較したものがあります。文部科学省の調査(平成19年)は次のとおりです。

	0時間	1～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	21時間以上
日本	9.7%	57.1%	18.4%	7.3%	3.2%	4.3%
アメリカ	0.3%	15.3%	26%	22.3%	16.8%	19.3%

日本の大学生の学習時間の少なさは欧米諸国や東アジア諸国の大学生と比較すると極端に少ないといわれています。アメリカからの留学生が日本の大学生に講義後、「今から何時間くらい勉強するの？」と質問し、日本の学生が「1時間くらい」と答えたら、アメリカの学生が再度「カフェテリアでの勉強時間ではなくて、自宅での時間は？」と聞き返したという話を聞いたことがあります。アメリカの学生から見たら、大学での講義終了後、1時間しか勉強しないのは信じられないのです。

これは高校生にもいえることなのです。文部科学省の第17回21世紀出生児横断調査(平成30年高校2年生を対象調査)によると、平成13年出生児が休日における家や塾等での勉強時間は、[しない]が29.9%、[1時間未満]が17.9%、「1時間～2時間未満」が13.7%という順になっており、日本の高校生の凡そ3分の1が、休日には勉強しないという結果になっています。

大学生、高校生共に学習時間が少なく、これらを改善するための一策として高大接続改革が実施され、A0入試や指定校入試が総合型選抜、学校推薦型選抜に変わるので。

いままでの指定校推薦では、大学が指定した条件で、校内で推薦されれば、多くは合格することができました。しかし、今後の学校推薦型選抜では、学力等を課すことになりました。こ

の学力を課すことが大学入学共通テストであったり、小テストであったり、口頭試問であったり、各大学によって異なってきます。いままでの指定校推薦は、各大学で指定した高校から出願すると、ほぼ合格というケースがほとんどでした。しかし、学校推薦型選抜では、学力等を課すので、場合によっては不合格というケースがでてきます。

いままでの A0 入試では、高校野球全国大会に出場したなどの実績で合格できたケースもあります。しかしながら総合型選抜では、学校推薦型選抜同様に学力を課すことになりました。さらに、校内外の活動履歴が分かるようにしておくことが必要です。Je ポートフォリオがどの程度、大学から活用されるのか分からない状況ですが、生徒手帳等に振り返りや活動記録を残しておくことが必要になります。総合型選抜では、学校推薦型選抜と同様の学力検査、調査書を提出するだけでなく、生徒本人が志望理由書、活動報告書、学修計画書等の提出が求められます。総合型選抜は、学校が推薦するのではなく、生徒自らが推薦する形になるのです。

現在、桜美林大学の A0 入試は、総合型選抜の先取りのような入試を行っています。提出する書類は、入学志願者調書、自己申告書、活動報告書、志願者評価書、調査書等となっています。例えば、入学志願者調書では、大学の授業参加歴や、最近読んだ本、最も興味深く読んだ本を記す欄があります。自己申告書は 1,200～1,600 字程度、これまでの特筆すべき業績、特徴、体験などについて記したり、学んで身に付けたことを志望する学群にどのように活かすかを記したりします。活動報告書は別添資料等を活用し、活動実績を具体的に記すことが求められます。国立大学のなかでも旧帝国大学(東大、京大、北大など)で総合型選抜を実施する場合、本人や学校からの提出書類以外に、大学入学共通テストの点数も提出することになると思います。

これから大学を志望するにあたって、各大学のアドミッションポリシーを見て、自らその大学で学びたいことがあるのかが重要だと思います。各大学のアドミッションポリシーには、どのような生徒に来てほしいのかが記されています。例えば、法政大学のアドミッションポリシーは次のとおりです。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有する者。
2. 自ら考え、判断し、表現する一定の能力をもち、その能力をさらに高める意欲をもつ者。
3. 主体性を持って多様な人々と協働しながら学び、議論することで、知を深めていこうとする能動的な姿勢をもつ者。
4. グローバルに視野を広げ、国際的な知識と表現力を獲得することに能動的である者。

本学は多様な入学方法により「異なる潜在力」「異なる価値観」「異なる能力」「異なる地域」「異なる動機・意欲」「異なる世代」など、多様な学生が集まる場となっている。このような場において、ポリシーに則ったカリキュラムを学び、本学の理念である「自由を生き抜く実践知」を身に付けることを求めている。

今後の大学選びは、早めに各大学のアドミッションポリシーや選抜方法を調べ、それに向けて高校生活(学習、部活動、資格取得など)を送ることが大切だと思います。